

講座 農企業経営情報学

2.6.1 研究分野：農業組織経営学

構成員：	教授	新山 陽子
	准教授	辻村 英之
	助教	田口 標
	大学院博士後期課程	9名
	大学院修士課程	11名
	専攻4回生	7名
	その他	1名
	研究員	1名

A. 研究活動（2010.4～2011.3）

A-1. 研究概要

a) 理論的基礎

当分野では、農業経営や食品企業、農業食料組織を社会的存在としてとらえ、それらがかかえる問題を明らかにするとともに、社会経済環境に対応し、内部構造を変化させ変貌して行くメカニズムとその方向性を解明することを課題としている。

これまでの経営学の上に、人間の情報処理能力をとらえる認知科学や、人間や倫理を考える経済学、新しい制度派経済学やコンヴァンション経済学などの社会的な調整システムを重視する経済学を吸収しながら、理論枠組みの検討を進めたいと考えている。

b) 市場と農業経営

世界の農業が自由市場原理の下におかれているが、果たして農業経営は完全な自由市場原理の下で存続できるであろうか。そもそも自由市場は、自然的・社会的条件に制約される世界の国々の農業生産を望ましい形に布置することができるか。農業生産の単位経済である農業経営は、生き物と同じで、生存環境が悪化すると自己努力だけでは生き延びることができない。市場は農業経営の生存環境であり、調整された制度に立脚することが必要である。そのあり方は、それぞれの国において農業と農業経営が果たす役割に対する社会的な価値判断にたつて、考えることが望まれる。アメリカや欧州、北東アジア、アフリカなどと比較しながら実情を検討している。

c) アグリビジネスと地域農業組織

農業には超国籍コングロマリット企業から伝統的な家族経営まで多様な事業体がありまゝる。また、食品製造や販売、外食など関連分野へ事業多角化が進んでいる。それぞれの構造と行動、その存在の社会的な意義と食品供給や地域社会に与える影響を明らかにする必要がある。他方、農業経営が存続するにはそれを支える地域組織が必要であり、地域農業システムや産地体制についての研究を蓄積している。

d) 人と経営

経営は人によって創られ動かされるものである。農業経営、食品事業経営について、経営理念、経営の哲学や思想、経営者職能、そして経営を動かすためにつくっている経営管理システムがどのような経営を生み出すか、また、経営の発展が社会に与える影響、経営の社会的責任・倫理、経営が創りだす文化についても解明していきたい。

e) 将来世代の食への責任とフードシステム、食品安全システム

今、食品安全や環境問題に加えて、食品価格設定をめぐる小売事業者と農業者、食品製造者の軋轢が拡大し、フードシステムの存続が揺れている。良好な状態を取り戻せるかどうかは、フードシステム関係者が共同して対応し、共に存続する道を探ることができるかどうかにかかっている。事業者や消費者のリスクや価格の認知と行動をとらえ直し、垂直的関係の焦点となる価格、品質、安全、トレーサビリティを巡る調整について、欧州や北米、アジア、アフリカなど世界各国を比較しながら検討を進めている。

とくに、価格の調整については、フードシステム各段階のパワーバランスの分析、公正取引、適正価格の実現に必要な対策の検討を行う。

食品安全のための調整については、科学的データを基礎としたリスク低減の意思決定システム/リスクアナリシスに必要な費用効果分析、リスク認知、リスクコミュニケーション研究を進めている。

f) 分野スタッフの個別研究

新山陽子：①フードシステムに関する理論的研究、②食品安全確保のための社会システムに関する研究、③食品由来リスク認知の国際比較研究、④消費者の価格判断に関する研究、⑤食品事業者の社会的責任に関する研究、⑥食品トレーサビリティに関する研究、⑦牛肉のフードシステムに関する日米欧比較研究、⑧農業経営の企業形態と経営管理に関する研究

辻村英之：①途上国産農産物（特にコーヒー）を事例としたフードシステム・アグリビジネス研究、②アフリカにおける農村協同組合の役割・育成に関する研究、③タンザニア農村における貧困問題と農家経済経営に関する研究、④生産地（途上国）における農産物のフェア・トレードの役割と消費地（先進国）におけるその発展に関する研究

田口標：①オーストリア山岳地域における環境保全型農林業複合経営に関する研究、②オーストリアの農山村におけるツーリズムに関する研究、③京都近郊山村の近世史に関する研究

A-2. 研究業績（国内・国外含む）

a) 成果刊行

著書

・新山陽子編著『ガイドライン改訂第二版対応解説 食品トレーサビリティ』昭和堂、2010年7月、323頁

・金澤一郎・祖田修・上野民夫・佐藤文彦・森口文雄・新山陽子・唐木英明『食の安全を求めて－食の安全と科学』学術会議叢書16、（財）日本学術協力財団、2010年1月、149頁

・小池恒男・新山陽子・秋津元輝『キーワードで読み解く現代農業と食料・環境』昭和堂、2011年3月、274頁

原著論文（書評論文を含む）

・新山陽子・細野ひろみ・河村律子・清原昭子・工藤春代・鬼頭弥生・田中敬子（2011）「食品由来リスクの認知要因の再検討－ラダリング法による国際研究－」『農業経済研究』第82巻第4号、230-242頁、2011年3月（査読あり）

・新山陽子「フードシステム関係者の共存と市場におけるパワーバランス」『農業と経済』第77巻第1号、2011年1月・2月合併号、75-88頁（依頼論文）

・新山陽子「食品安全のためのGAPとは何か」『農業と経済』第76巻第7号、2010年6月、5-15頁（依頼論文）

・新山陽子「食品安全問題対策における北東アジアの連携の可能性」『農業と経済』第76巻第3号、2010年3月、65-77頁（依頼論文）

・辻村英之「キリマンジャロにおける牛の飼養・販売の特質—農家経済経営リスクと家計安全保障—」『生物資源経済研究』第16号、2011年3月、95-113頁（査読有）

・辻村英之「「地域農商工等連携」とJAの「新たな協同」—地域活性化のための多彩な連携—」『農業と経済』第76巻第8号、2010年7・8月、46-55頁（依頼論文）

・辻村英之・水野由康「アフリカにおけるバイオ燃料用作物の役割—ヤトロファはタンザニアにとって「奇跡の作物」か「新植民地システム」か—」『農業と経済』第76巻第4号、2010年4月、163-170頁（依頼論文）

・K. Matsushita and K. Taguchi: The Kyoto Protocol and the private forest policy of local government in Japan. *Small-scale Forestry* 10 (1); 19-35, 2011（査読有）

・田口標・松下幸司・宇野日出生「京都大原の山林文書（四）木村宗右衛門による御入木山支配を中心として」『生物資源経済研究』第16号、2011年3月、115-172頁（査読有）

総説

・新山陽子「地域シンポジウム 食農連携と産業クラスターの発展—京都の農業者、食品事業者、消費者の新たな繋がり—」『農林業問題研究』第46巻第4号、420-421頁、2011年3月

・新山陽子「農業における『企業経営』の可能性と課題・日本農業経営学会会長挨拶」『農業経営研究』第48巻第4号、2011年3月、1-2頁

・辻村英之「フェアトレード・国際シンポジウムの報告」『atプラス』4号、2010年5月、96-99頁

・辻村英之「『おいしいコーヒーの経済論』に対する論点提起に答えて」『農林業問題研究』第46巻第2号、2010年9月、310-311頁（書評リプライ）

b) 学会発表

・日本リスク研究学会 新山 1本

・日本コーヒー文化学会（招待講演） 辻村 1本

A-3. 国内における学会活動など①

所属学会等（役割）

・新山 陽子：日本農業経営学会（会長：10月まで）、日本農業経済学会（会員）、日本フードシステム学会（会員）、地域農林経済学会（会員）、地域農林経済学会（会員）

学術会議関連（役割）

・新山 陽子：日本学術会議連携会員（食の安全分科会委員長、農業経済学分科会副委員長）

A-3. 国内における学会活動など②

競争的資金等獲得状況

①科学研究費補助金

- ・基盤研究 (S) : 新山陽子 : 食品リスク認知とリスクコミュニケーション、食農倫理とプロフェッションの確立
- ・基盤研究 (C) : 辻村英之 : キリマンジャロの農家経済経営と農村発展 : フェア・トレードの役割

A-4. 国際交流・海外活動①

所属学会等 (役割)

- ・新山 陽子 : Society For Risk Analysis (会員)

国際会議・研究集会等 (国、役割)

- ・新山 陽子 : 2010 the Korean Academic Association of Livestock Management Summer Conference (招待講演)、瀬戸内国際シンポジウム2010 (日本、招待講演)

国際共同研究・海外学術調査等

- ・新山陽子 : 食品安全におけるプロフェッションの確立、新山陽子、フランス・オランダ
- ・辻村英之 : キリマンジャロの農家経済経営と農村発展、タンザニア

B. 教育活動 (2010. 4~2011. 3)

B-1. 学内活動

a) 開講授業科目 (担当教員)

- ・全学共通科目 : 世界の食料・農業・環境 (新山)、偏見差別人権 (新山)
- ・学部 : 調査研究方法実習 I、II (新山・辻村・田口)、農業組織経営学 (新山)、農企業問題特論 (新山、辻村)、アグリビジネス論 (辻村)、国際農林業概論 (辻村)、農業組織経営学演習 I、II、III (新山・辻村・田口)、食品安全学 II (新山)、食・農学倫理 (新山・辻村)
- ・大学院 : 農業組織経営学 I、II (新山)、アグリビジネス分析論 (辻村)、農業組織経営学専攻演習 I、II (新山・辻村・田口)、比較農業経営論 (新山・辻村・田口)

B-2. 学外における教育活動

学外非常勤講師

- ・辻村英之 : 金沢大学教養教育機構 (飲料の世界 (年 2 回担当))
- ・辻村英之 : 長浜バイオ大学 (生物生産学概論 (年 1 回担当))

公開講座等

- ・新山陽子 : 京都大学公開講座・食品トレーサビリティ講習会、開催責任者・講師
- ・新山陽子 : 食品トレーサビリティ公開講座、東京大学 大学院情報学環 ユビキタス情報社会基盤研究センター、共同開催責任者・講師
- ・新山陽子 : 日本学術会議 第2部公開シンポジウム「科学の社会的責任」、講演者
- ・新山陽子 : 東京大学農学・生命科学研究科フードサイエンス棟竣工記念シンポジウム、招待講演
- ・新山陽子 : 食品安全セミナー、アジア生産性機構、講師
- ・辻村英之 : 金沢大学特別公開講座・コーヒー学入門、講師
- ・辻村英之 : ユニセフ兵庫支部・フェアトレード学習会、講師

・辻村英之：JICA中部・フェアトレードカレッジ、講師

B-3. 国際的教育活動①

留学生・外国人研修員の受入

・留学生： 研究生等 1名 (中国)

C. その他

・新山陽子：消費者庁事故情報タスクホース（委員）、葉たばこ審議会（委員）、京都府家畜改良増殖審議会（委員）、兵庫県食の安全安心と食育審議会（委員）、京都市中央卸売市場第二市場運営協議会（会長）、兵庫県農政審議会（委員）、京都府農業会議（専門員）、中日農業賞（審査委員）